

<レポート6> 東海総合通信局の業務内容の多様さ、重要さを学ぶことができた

私が東海総合通信局のインターンシップを志望したのは、大学からインターンシップの情報が届いたことがきっかけでした。東海総合通信局とはどのような機関なのか、どのような業務を行っているのか等を知らず、インターンシッププログラムを見て大変興味が湧いたので応募し、8月23日、9月7日、14日、27日の実習に参加させていただきました。

まず、東海総合通信局について紹介させていただきます。東海総合通信局は、総務省の地方支部局です。役割として、飛行機、船、電車などで使われる無線や、ラジオやテレビ、携帯電話の電波通信の許認可などを行っている機関です。

次に、それぞれの日程で行われた実習内容について述べていきます。

8月23日は、東海総合通信局の中にある航空海上課、陸上課、監視調査課の三つの課が行っている業務説明と、無線機の通信操作及び簡単な測定、電波の強弱を解析し可視化する測定器の操作体験をさせていただきました。

航空海上課では航空海上関係の無線局の許認可と検査、そして無線従事者制度の概要を説明されました。航空担当では、飛行機などの航空機に搭載する無線局(航空機局)と、それらとやり取りするための陸上の無線局の許認可を担当しています。

陸上課の無線局許認可・検査においては、携帯通信キャリアへの許認可・免許を行っています。こうした認可によって、我々は無線従事者の資格が無くてもスマートフォン等の電子機器を使用することが出来ます。

二日目となる9月7日には、放送課の業務内容の説明とケーブルテレビに関する許認可・監督業務の説明。そして、災害対応等の業務体験、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社の担当者様とのローカル5Gの活用に関する意見交換が行われました。

放送課は、主に放送事業者への許認可等を行っています。それぞれ申請された放送事業者の経営状況などを通じて手続きを厳正に審査していきます。しかし、放送という社会的影響力の大きさから、外資系の放送事業者には基本的に許認可を出しません。

次にケーブルテレビに関する許認可、監督業務の説明が行われました。ケーブルテレビには、光ケーブルと同軸ケーブルを用いるHFC方式と光ケーブルのみを用いるFTTH方式の二つの伝送方式が存在し、現状ではケーブルテレビ加入世帯の大半でHFC方式が使われています。しかし、この方式は豪雨や震災などによる停電に弱いといった短所があるため、FTTH方式への切り換えやケーブルテレビネットワークの光化による耐災害性強化が必要となります。

最後にスターキャット様とは、5G及びローカル5Gの説明と意見交換が行われました。

5Gとは、超高速・超低遅延・多数同時接続が可能になるシステムです。主に敷地内や建物内での利活用について個別に免許がされる5Gシステムで、地域の企業や自治体等の組

織が、自らの土地内でスポット的に柔軟な構築が可能で、利用者単位で個別最適化が可能となるのが大きな特徴です。通信局は、ローカル5G技術を多くの組織に活用してもらうための普及や使用許可などを行っています。

意見交換では、ローカル5Gの技術を活用してどのような事が出来るかを実習生がグループに分かれて話し合い、発表をしました。

ローカル5Gとはどういった技術なのか、導入することでどう活用できるのかを新しく知ることが出来た一方、ローカル5Gの導入には、初期費用や維持費用など莫大なコストがかかることもあり、あまり普及していないということも学びました。

9月14日には、情報通信振興課の業務概要についてお話を聞かせていただきました。

情報通信振興課では、地方公共団体、企業などを対象に、①計画策定支援、②実証事業、③補助事業などの地域デジタル基盤活用推進事業を行っています。

また、デジタル活用支援推進事業という高齢者等のデジタル活用の不安解消に向けて、デジタル活用支援を講習会形式で全国においての実施事業も行っています。通信局では、高齢者の方々がデジタル社会の変化に置いて行かれないように重点を置いて支援推進事業を行っていることを学びました。

最終日となる9月27日はe-ネットキャラバンのという、主に小学生から高校生までの児童・生徒にインターネットを使い方やモラルを啓発する講習会の特別講師として参加させていただきました。

私はこの日、岡崎市にある大樹寺小学校の6年生の生徒さんと保護者の方々に向けて講習会でお話をさせていただきました。講習中に講師として担当されていた通信局の職員の方が生徒さんに向けて自分のスマホやタブレットを持っている人がどれくらいいるかを問いかけた時に、生徒さんのほとんどが手を挙げました。ネットを活用する年代が若年化しているといっても、その数の多さに大変驚きました。

講習会の中は、講師である職員の方が質問を投げかける度に生徒さんはみんな手を挙げたり、隣に座られていた保護者の方々と話をしたりして、しっかり話を聞いて参加している空気を感じることができました。講習では、アニメーションの映像が途中で挟まれ、生徒さんが飽きない、ネットの危険や注意する事柄に取っ付きやすいといった効果が表れていました。講習を行う学年によって実感しやすく、理解しやすい工夫がされているe-ネットキャラバンは、インターネット社会が急速に発展している現代において、ネットモラルの啓発に大きな効果を得られる非常に大切な活動だと思われました。

私はインターンシップに参加させていただき、東海総合通信局の業務内容とその多様さ、重要さを学ぶことが出来ました。職員の皆様が丁寧に説明をしてくださり、とても暖かい雰囲気を感じました。通信局では、我々に身近な業務や人民の命を守るために重要な業務があ

り、職員の方一人ひとりが誇りを持って働いていらっしゃるのだと強く思われました。私はこのインターンシップで、自分の将来を決定するための視野が大きく広がる大変貴重な経験をさせて頂きました。

以上